

## プログラム4「球溪の演奏活動について」

森みゆき（尚絅大学短期大学部准教授）

古い新聞記事の写真を2件掲載しています。左は明治42年8月24日の九州日日新聞の記事です。九州日日新聞は、のちに熊本日日新聞となります。この記事には、8月21日に人吉高等小学校で「人吉音楽会第四回演奏会」が開催され、犬童信蔵（球溪の本名）がヴァイオリンの演奏をしたことが書かれています。ここに写真は掲載していませんが、新聞記事を少しさかのぼり、明治38年8月10日を見ると、東京音楽学校（現在の東京藝術大学音楽学部）を今年卒業する犬童氏らが人吉で音楽会を開催するという記事があります。41年7月24日の記事には、「例年行われている演奏会」と書かれており、おそらく38年から毎年夏に開催されていたのでしょう。下の写真右の43年8月20日にも演奏会の記事があり、約200名の観客が来場し、その中には「西洋婦人」もいたことが書かれています。当時の音楽会は、ヴァイオリンやピアノ等の西洋音楽と、三味線や琵琶等の日本音楽が演奏される和洋折衷のプログラムでした。

当時の東京音楽学校の卒業生は、日本各地の師範学校や高等女学校に勤務しましたが、学校で音楽を教える他にも、重要な役割がありました。県内の小学校教員を対象とした講習会で音楽を教えることも大事な仕事の一つでした。当時は楽器を弾いたり楽譜をすらすら読めたりする先生がほとんどおらず、レコードも普及していない時代です。小学校の先生は夏休み等に行われる講習会で新しい曲を教わり、子ども達に教えていました。また、西洋音楽の演奏家もいない時代ですから、東京音楽学校の卒業生は各地で演奏活動も行っていました。それに加え、作詞や作曲活動を行い、音楽の教科書も執筆するという、現在で言えば音楽の高校教員と大学教員と演奏家と作曲家を兼業するという仕事量でしょうか。球溪も同様でした。球溪は東京音楽学校を卒業後、兵庫県と新潟県の学校を経て、熊本県立高等女学校（現在の熊本県立第一高等学校）に勤務し、その後人吉の学校に勤務しました。

現在まで続く犬童球溪顕彰音楽祭のルーツは、昭和10年まで遡ることができます。しかし、それ以前に、人吉に最初に西洋音楽の演奏会を持ち込んだのが球溪であったらうということは、とても興味深いことだと思います。

明治の九州日日新聞の記事

**人吉の音楽會**  
 音楽趣味 鼓吹の爲め例年開催せる人吉音楽會 第四回演奏會は去廿一日人吉高等小学校にて開催第一節人吉校生徒の唱歌合 唱犬童信蔵氏のヴァイオリン 成田謙己氏のオルガン 幸田幸吉氏の唱歌獨唱及び成田大 童黒木幸田氏のヴァイオリンオルガンの合奏あり第二節は可憐なる少女の八音琴、令嬢の箏、鐵道俱樂部員及び鹿兒島旭海氏の筑前琵琶、津志氏西岡志賀七士の三味線等の合奏等ありたるが何れも多大の感興を惹き來會者も昨年よりも多かりし

明治42年8月24日

**人吉の音楽會** 既記の如く十八日午後二時より球溪 藍田村東閣校に於て人吉音楽會演奏會あり人吉高等小學校男女三三學校生の唱歌幸田幸吉大童信蔵兩氏のヴァイオリンオルガンの獨奏連奏及び戸田マヌエ 多田アキエ 植田サツキ 永井トモ山北ミチ 田口リク 諸子の八雲 琴 矢野三象氏の筑前琵琶 薩摩 高木正八 高見菊次郎の尺八横本ミツ 勝間田スナ 鋼谷タメ 新宮ツサ 前田静江諸子の三味線 琴の合奏等あり三曲の合奏は非常の喝采を博したり内前田静江子は慈々熊本より招聘したるもの其技巧は美貌と相俟つて注意をひき八雲 琴亦多年練習の手並み能く特色を發揮したり聴衆約二百名重に婦人にて内西洋婦人も見受たり (人吉)

明治43年8月20日